

早朝から雨模様で、気温は緩んだもののすつきりしない午前の句会になりました。題が単調な「寒い」でしたが、多彩な句を戴きました。出席者十四名、投句のみの方六名。小学生四名。二月の句会は

二月の句会… 令和六年二月二十五日(日) 午前十時～十一時四十五分

集会所

題… 「そわそわ」

一月の題「寒い」から

* お財布に貼ってみましたホッカイロ

隆子

(十四人の中から十一人の方が選ばれ突出した最多共感句になりました。着想が奇抜で素晴らしい。そつとユウモアも。さぞかし財布はホッカホッカでしょう。句会の場が一気に陽気になりました。)

* もどかしい寒い被災地届かぬ手

桐子

(報道によると元旦の能登地震を引き起こしたエネルギーは熊本地震の5倍ほどもあり、被害は想像を絶する規模です。時期も真冬で一か月経た今もって支援の手が届いていません。熊本のふんえん吟社も募金呼び掛けていますので、僅かですが寄付しました。もどかしい限りです。)

* 寒い冬早く飛んでけ能登に春

早苗

(この句も能登の惨状に思いを募らせるものですが、前向きの気持ちで表現されました。そこが素晴らしい。早く早苗さんらしい秀句。)

* 寒さなど能登を思えば屁でもない

まさひろ

(これも能登の被災者の二重苦、三重苦を慮おもんばかったった句を戴きました。戦時中、阿蘇の小学校の零下五度の運動場での朝礼で、校長先生が戦場の兵隊さんを思えと楯を飛ばされたことを思い出しました。)

* おお寒い熱いお茶飲み動き出す

てるみ

(朝一番に仏さまと一緒に飲むあつあつのお茶は一日の起爆剤と作者。一仕事終えて飲む癒しのお茶が好きという意見も出ました。たかがお茶、されどお茶です。昔は茶室で天下国家が論じられました。)

* 瓦解した能登に非情な雪が降る

六郎

(神も仏も居ないのかと叫びたいような大災害に、歌謡曲のような句を詠み不謹慎に恥じ入ります。)

* 寒いけど地域のふれあい温かい

雅子

(この月出川柳の会も三町内のふれあいの一つとして、平成二十五年に発足しました。和気あいあいが続いているのも皆さんのおかげです。川柳が紡ぐ人の輪温かい。)

* 寒い日々気合いを入れて外歩き

英代

(偉い。英代さんの健康法。)

* 手袋を貫き通す冬の風

和博

(自転車のハンドルを握れば手袋の材質の差がてきめんです。ずっと以前には、ハンドルの握り自体に防寒袋を付けたものですが、今は見なくなりました。)

* マスク越しはずむ会話も息白く

貴美子

(情景が浮かびます。マスク美人はやりで結構なことですが、一年以上来てくれているヘルパーさんの素顔は知りません。道で出合っても分からないかもしれません。)

* ドンドヤで寒い空気も赤く舞う

まゆみ

(月出小学校の運動場で開催される恒例のドンドヤの様子です。話では例年になく今年は高く燃え上がったそうです。もえあがる炎の様子を下五で赤く舞うと詠んだ工夫で生きた川柳句になりました。)

* 増えてゆくほころび寒い老いの道

伸子

(八十路も半ばを過ぎると、日々実感する老いをとても上手く表現して頂きました。句姿も良く秀句。)

* 年金の支給日遠し風しみる

憲郎

(手間を省くつもりか二か月分を偶数月に支払う仕組みですが、手許にあれば使うのが人情。二か月はもたず、懐が寒くなる。できれば月給方式にしてくれという事か。物価高騰から年金は目減りするばかり。もっともなご意見。)

* 小雪舞う半袖登校我れふるえ

蓼

(真冬も短パンTシャツで登校する子っていますよね。見ての方が震えあがります。昭和の時代は乾布摩擦や冷水摩擦が健康法として流行ったことがありました。半袖で登校の子に小雪舞う)

* 寒い朝登校前の雪だるま

しずこ

(阿蘇地方では雪合戦、雪だるまは子供の遊びの定番でした。今は十分な降雪があるのかなあ。)

* ちぢこまりテレビ見ながら舟をこぐ

優位子

(ご主人の様子とのこと。奥さんの積極性を分けてあげなきゃ。熊本市議会議員長など超多忙な毎日を送られた方なので、毎日が日曜日との落差は考えても余りがあります。)

* 掘りごたつ家族そろって楽しそう

郁代

(かつての家庭団欒が浮かびます。今はエアコン、床暖房で活動的ですが、昔人間にとっては味気なし。我が家は炬燵に灯油ストーブも愛用しています。湯たんぼの湯沸かし、それに昼寝に便利。)

* まつばぎく氷点下にも負けないう

千恵

(「寒い」の題からマツバギクの強さに着想が広がりました。句意に「寒い」が表現されています。)

* 澄みし空散歩はく息霜の音

展行

(川柳は原則として口語体です。上五は澄んだ空とすると、優しくなります。中七下五がちょっと切れ切れの感じがありますので、澄んだ空吐く息白く霜を踏む　ザクザクと霜柱踏む音も感じ取れます。)

* カラフトの雪の景色がなつかしい

公男

(作者にとっては少年期の故郷ですものね、懐かしいでしょう。子供の頃は阿蘇の村里でも20〜30センチの積雪は度々ありました。何もかもふっくらと包む一面の雪景色は、私にとっても懐かしいです。)

* 冬野菜寒さがまして甘味ます (大根が美味しいだけで冬が好き　と言う名句あり。)

まゆみ

* 年明けの大揺れ津波寒波まで (言葉を失う大災害。伊藤さんの実家は大丈夫なのかなあ。)

蓼

* 語り合う幼いころの冬景色 (同郷のご夫君でよかった。手袋脱いでお手をつないだ思い出か。)

早苗

* 「年取ったな」ため息二人日向ぼこ (老老あい哀れみではなくて、老老あい睦み合いです。)

遊位子

* 孫来たる正月年玉札が飛ぶ (懐は寒いなの　と付記あり。嬉しい悲鳴。)

展行

* 台所凍えるお手に武者震い (一日の始動、寒さに気後れしてはおれない主婦の意気。)

貴美子

* 寒い朝家族そろって初詣で (願ひ事はそれぞれ。)

まさひろ

* 凍り道自転車乗るもおずおずと (これは危ない、急がば歩けですよ。)

しずこ

* 北風も太陽あれば寒くない (インソップ物語の北風と太陽を思い出しました。)

千恵

* 寒風に背中丸めてアルマジロ (アルマジロでは意味がだぶり。寒風に背中丸める歳になり。)

和博

* 縮こまる日気持ちとがらせウオーキング (ちよっと気持ちの勇み足。)

てるみ

* 今日もまた手抜き料理の寒い夜 (句も上手いが料理もお上手でしょう。湯豆腐大好き。)

伸子

* うそ寒い政治家のための政治か (自己保身ばかりで国民は蚊帳の外。)

桐子

* 雪雲よ寄ってくれるな被災地に

隆子

(適わないことと知りつつ、祈らないではおれない私たち気持ちの句を締めに頂きます。)

以上